

### 第4章 近代和歌山の発展



時代区分	旧石器・縄文・弥生時代
	古墳時代
	飛鳥・奈良・平安時代
	鎌倉・室町時代
	戦国・安土桃山時代
	江戸時代
	明治・大正・昭和(戦前)時代
昭和(戦後)・平成時代	



## 『牟婁新報』と大逆事件

### 水準の高い和歌山県の新聞界

新聞は、世論をつくるとともに文化の巨大な担い手であるといえましょう。私たちは、新聞によって世の中のできごとを知り、政治問題や社会問題についての知識を高めていきます。まして今日のようにテレビやラジオなどがなかった時代には、新聞の果たす役割はたいへん大きいものがありました。

県都和歌山市で、新聞が発刊されるのは1872(明治5)年ごろからです。文明開化を進める政府や県の主張を支持し、それを応援する立場から『和歌山新聞』が発刊されました。その後自由民権運動を進める立場の新聞などのほか、多くの新聞が発刊され、いろんな立場の読者・県民の支持を得ながら発行部数を増やしていきま

明治時代和歌山県で発行されたおもな新聞

新聞名	創刊年	発行地	発行度数
官許和歌山新聞	明治5(1872)年	和歌山市	隔日刊
弱山絵入新聞	明治15(1882)年	和歌山市	不明
和歌山新報	明治25(1892)年	和歌山市	日刊
紀伊毎日新聞	明治26(1893)年	和歌山市	日刊
熊野新報	明治29(1896)年	新宮町	隔日刊
和歌山実業新聞	明治30(1897)年	和歌山市	日刊
牟婁新報	明治33(1900)年	田辺町	隔日刊
熊野実業新聞	明治33(1900)年	新宮町	隔日刊
有田新聞	明治34(1901)年	湯浅町	月3回刊
紀南新聞	明治35(1902)年	御坊町	隔日刊
紀伊新報	明治42(1909)年	田辺町	日刊
熊野日報	明治44(1911)年	新宮町	日刊

明治三十一年九月十七日 報新婁牟 (回十月) (可許物便郵種三第)



『牟婁新報』記事(大石祿亭とは大石誠之助のこと)

すぐれた新聞記者も育っていきました。また、他府県から和歌山へ来て新聞の編集に携わる人もいました。和歌山は、そうした人材を受け入れ、活動の場を保障する風土と土地柄でした。当然和歌山の文化水準は上がっていきました。河島敬蔵が日本で最初のシェイクスピア劇の翻訳「ロミオとジュリエット」を和歌山耕文舎から刊行しました。

\*1 和歌山市出身の英文学者・翻訳家。1986(明治19)年、『露妙樹利戯曲』として刊行された。

## 社会主義思想と「牟婁新報」

日露戦争に反対する声は、和歌山市でもキリスト教青年グループを中心に行われています。日露戦争の勝利は、わが国の国民に大きな自信を与えましたが、多大の負担を強いることにもなりました。そういった世相を反映して、社会主義の思想もおこってきました。

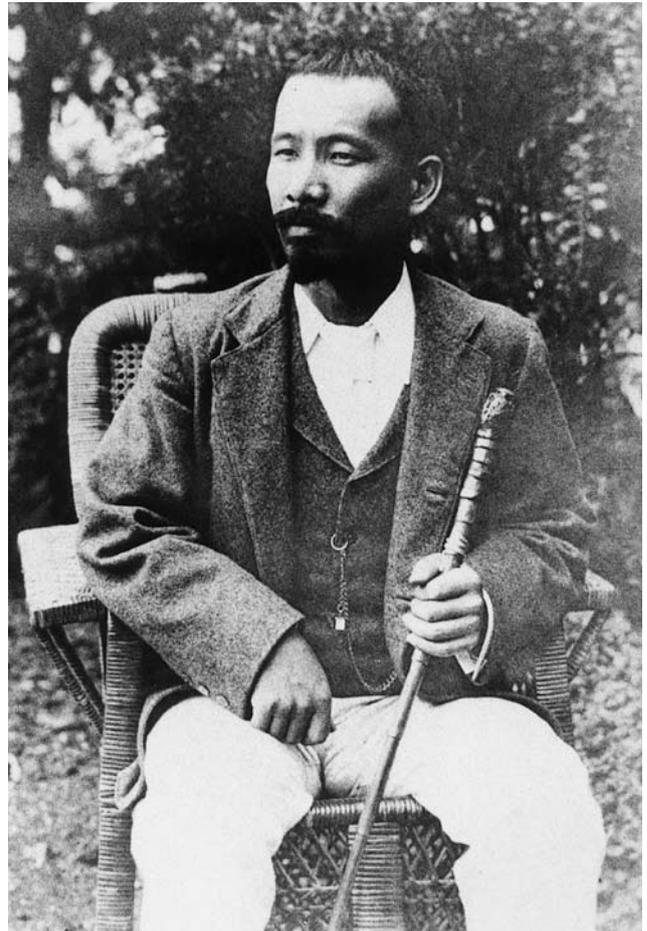
毛利柴庵が1900年に紀南の中心地田辺で発行した『牟婁新報』は、社会主義の考えをもった記事も書かれている新聞として、広く世に認められていきました。柴庵は、新しい仏教の考えを取り入れた社会主義の傾向のもち主でしたが、考え方の広い人でしたから、1905年に社会主義者の荒畑寒村が記者として田辺に招かれ、ついで管野スガ（後に幸徳秋水の妻）も田辺に赴任すると、同紙はさらに激しい社会主義的主張をくり広げました。また、東京などの社会主義者たちとも交流が深かった、新宮の医師大石誠之助も、この『牟婁新報』の有力な投稿者の1人でした。

## 大逆事件と大石誠之助らの悲劇

社会主義思想が田辺で最も盛んであったのが、荒畑寒村らが活躍した1905～06年で、新宮で最も盛んになったのは1908年のことです。幸徳秋水がこの年の夏、新宮に大石をたずねています。大石は困っている人からは治療費をもらわないなど、「ドクトル（毒取る）さん」と親しまれていました。若者にも共感をよせていた大石の人柄をしたって、社会主義に関心をもつ青年たちが、大石のまわりに集まり、さかんに論議しあいました。

1910年、長野県で爆弾を持っている者が見つかり、天皇の暗殺を企てたとして、全国で社会主義者の逮捕がつづきました。その中心者は、幸徳秋水ということにされました。世に大逆事件とよばれた事件ですが、このとき、大石を中心とする「紀州グループ」の人々6名も次々ととらえられていきました。そして、大石と成石平四郎の2人が死刑、成石勘三郎・高木顕明らが無期懲役に処せられました。高木顕明は、新宮の浄泉寺の住職で、貧困などで苦しんでいる人々の相談相手としてやさしく手をさしのべていました。そうしたことから、たくさんの人々からしたわられていました。また、成石勘三郎と平四郎の兄弟は請川（田辺市）で将来を期待されていた青年たちでした。

この事件をきっかけに、日本では、特に社会主義者のとりしまりがたいへん厳しくなりました。第二次世界大戦後、大逆事件にかかわる資料が次々と発見されてこの事件の真相が明らかにされ、大石らは、全くの無実であったことがわかりました。



大石誠之助